

徳島県太平洋岸に出現したアメリカンロブスター

次長 上田 幸男

Key word ; アメリカンロブスター, オマールエビ, アメリカウミザリガニ, 由岐, 刺網

平成 19 年 12 月 27 日に東由岐漁協において全長 25cm, 体重 500g のオマールエビ(ロブスター)が漁獲された。漁場は太平洋に面した由岐地区と木岐地区の境界にある通称ウメトラで、水深 8~9m の砂地に仕掛けられた魚類狙いの刺網に掛かった。

これまで徳島県沿岸でオマールエビが水揚げされたという話は聞いたことがない。オマールエビを水産研究所に持ち帰り、種の査定を行ったところ、ハサミや頭部の形態からアメリカンロブスター *Homarus americanus* H. Milne Edwards, 1837(標準和名;アメリカウミザリガニ)であった(FAO species catalogue に準拠)。本来、カナダからアメリカ合衆国の大西洋岸(水深 4~50m)のみに巣穴を掘り棲息する冷水性のザリガニの仲間であり、太平洋に棲息するものではない。日本では 1990 年 12 月に神奈川県大磯崎の水深 35~40m に仕掛けられたカレイ刺網で漁獲されたことが報告されているが(渡部 1993), その他の地域での報告事例はない。イセエビ漁が盛んな三重県や静岡県に聞いても採集事例がないことから非常に珍しい出来事と思われる。

今回採集された個体がどのような経緯で徳島県海部沿岸に来遊したのか、以下の仮説をたて検証してみた。

仮説 I ; 大西洋から海流に乗って浮遊幼生が徳島県沿岸に輸送された後着底し、成長した。

仮説 II ; 外航船のバラスト水によって浮遊幼生が運ばれ、着底後成長した。

仮説 III ; 輸入され、食用となるまで飼育されていたが、何らかの理由で脱走した。

仮説 IV ; ペットとして飼育していたアメリカンロブスターを故意にリリースした。

現時のところ、本海域で漁獲されたアメリカンロブスターは僅か 1 個体であること、及びフィロゾーマ等イセエビ類の浮遊幼生の浮遊期間は約 1 年と長い、アメリカンロブスターの浮遊期間は僅か 1 カ月と短いことから、大西洋から運ばれたと考えるには浮遊間が短すぎる。以上の理由から仮説 I と II は却下される。

日本には年間 2,000~2,800 トンの冷凍や活きたロブスターが空輸され、全国各地のホテルや飲食店に配送される。徳島市場にも活きたロブスターが搬入され、徳島県各地のホテルや民宿に配送されている。特にイセエビの禁漁期(5 月 15 日~9 月 15 日)には取扱量が増えるようである。ただ、徳島県沿岸には海に直結する飼育施設があるかどうかは不明である。

WEB で検索すると僅かながらロブスターのペットとしての飼育事例がみられる。以上の理由から仮説 もしくは の可能性が高いと考えられる。

今回漁獲されたアメリカンロブスターはほとんど傷がなく、試験場に搬入後も糞を排泄していたことから、本海域に馴致し、捕食行動を行っていると考えられる。

以上結論をまとめる、何らかの理由により放流もしくは脱走したものが由岐沿岸に来遊し、棲息していたものが漁獲されたと推測される。

冷水性のアメリカンロブスターがこの海域で生き残り、繁殖する可能性は低く、他の魚介類に影響を及ぼす可能性は少ないと考えられるが、疾病を持ち込み、生態系を混乱させる可能性があると考えられる。このことから外来性の魚介類のギャング放流や不適切な管理を行わないでほしいと願う。

現在、このロブスターは水産試験場の水槽で飼育されている。良く摂餌し、夜行性のため昼間は塩ビのシェルターに隠れていることが多い。



写真 徳島県太平洋岸で採集された体重 500g のアメリカンロブスター

文献

FAO Fisheries Synopsis No.125, Volume 13, Marine lobsters of the world, p58.

渡部 元, CANCER 3 (1993), p3-4.